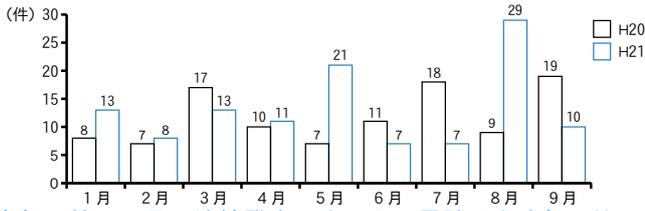


ないために

ひったくり



●ひったくり被害認知件数の月別推移（道内）



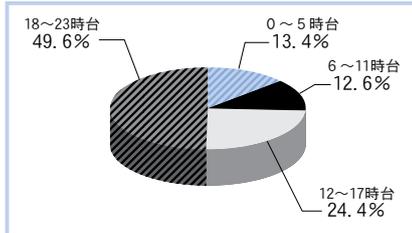
今年は特に8月に連続発生しました。累計でも昨年に比べて13件増加しています。

悪質な犯罪—ひったくり。お年寄りや女性が被害に遭うケースが多く、中には転倒し、けがを負わされた事件も発生しています。

今年は特に全国の都市部で急増しており、市内での発生は道内の約7割を占めています。ここではひったくり被害に遭わないための防止策をご紹介します。

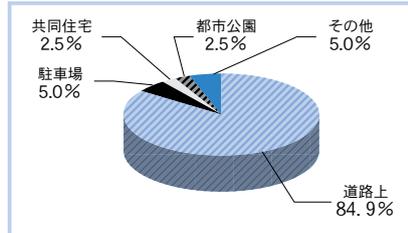
（データはいずれも平成21年9月末現在）

●時間別発生状況



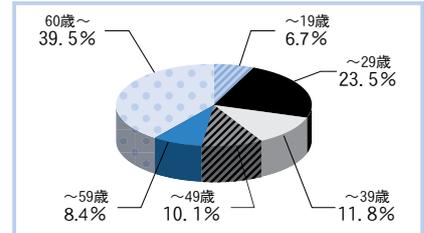
18～23時台の発生が半数近くを占めています。

●場所別発生状況



道路上（住宅街の中通り、次に幹線道路）での発生が8割以上を占めています。

●被害者の年齢別発生状況



60歳以上が約4割、20歳代が2割以上を占め、ほとんどが女性です。

ひったくり被害に遭わないための3つのポイント

<徒歩の場合>

- バッグは車道側ではなく「建物側」に持つ。
- バッグを前に抱えるようにしっかりと持つ。
- ショルダーバッグはたすきがけにする。



<自転車の場合>

- カゴに貴重品を入れない。
- ひったくり防止ネット・バンドを取り付ける。
- バッグの上に服や雑誌を置く。



◎北海道警察と社団法人札幌ハイヤー協会では、タクシー乗務員が事件などを目撃した場合は、通報するとともに、車両に搭載しているドライブレコーダに録画を行うという内容の協定を今年8月に締結しました。事件の検挙と予防に効果が期待されます。

自分だけは「大丈夫」と思わないで！

- 人通りが多く、明るい道を選びましょう。
- 110番通報がすぐにできるように、携帯電話は身につけておきましょう。
- 防犯ブザーなどを携帯しましょう。

お問い合わせ

中央警察署生活安全第一課
（北1西5） ☎242-0110

もし被害に遭ったら

- 大声で周囲に知らせる。
- すぐに110番通報する。
- 被害品を確認する。
- 犯人の特徴（逃走手段、服装、人数など）を覚える。
- 必ず被害届を提出する。



犯行現場を見かけたら

- その場ですぐに110番通報する。
- 現場状況（時間、場所、負傷状況、犯人の特徴など）を警察に通報する。



こんな場面に注意



↑ 金融機関からの帰り道



↑ 女性の深夜の一人歩き



↑ 高齢者の一人歩き